

平成 2 5 年度第 2 回

流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会議事録 要旨

1 開催日時

平成 2 5 年 7 月 4 日（木）

1 6 時 0 0 分から 1 7 時 4 2 分

2 開催場所

流山市文化会館講義室

3 出席者

奈良委員、長塚委員、鈴木（美）委員、安藤委員、渡部委員、岩井委員、池上委員、鈴木（孝）委員、小山委員、越智委員、大久保委員

出席 1 1 名・欠席 5 名

4 次第

議題

- （ 1 ） 地域包括支援センターの第三者評価について
- （ 2 ） 地域密着型サービスの実績報告
- （ 3 ） 地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について
- （ 4 ） 地域密着型サービス事業者の廃止について
- （ 5 ） 地域包括支援センターの職員変更について
- （ 6 ） その他

5 議事（要旨）

・事務局

意見聴取シートについて、幾人かの委員から提出していただいている。地域包括支援センターの評価についての意見も頂き、資料に反映し、また本日の説明の中で反映させていただきたい。

・会長

本日の出席状況について、出席 11 名、欠席 5 名で、半数以上の出席により本協議会の成立について報告する。

議題（１）について、事務局から説明を。

・事務局

地域包括支援センターの第三者評価について。

第三者評価委員の選出について、本協議会の委員の中から 5 名を選出したい。自薦・他薦等選出の方法、職種などご意見を頂きたい。

スケジュールについて、7 月中に自己評価を行う間に 5 名の委員を選出する。8 月に 5 名の委員が地域包括支援センター現地に行ってヒアリングを行うと考えている。8 月中に 5 名の委員を集め、半日程度の作業で第三者評価を一つのシートにまとめたい。9 月には地域包括支援センターへフィードバックしたい。評価委員の方には、ヒアリングとシートの作成、フィードバックと計 4 日程ご協力をお願いしたい。

10 月には地域包括支援センターが、指摘された課題をシートについて記入してシートを完成させ、11 月上旬の本協議会で報告して一連の事業を終了し市のホームページで公表したい。また、この評価をもとに可能なところから順次地域包括支援センターの事業に反映させるとともに、地域包括支援センターの 26 年度事業計画の立案に向けた事業評価を行いたい。

今年度は中途半端な時期になるが次回からは 26 年の 3 月から 7 月にかけて同様の段取りで地域包括支援センターの 26 年度事業計画に向けて行っていきたい。良かった点、反省の残る点が出てくるが必ず出てくるが、更によいものにしてほしいという意見があった。

評価委員について、中立公正の立場で評価していただける委員をという意見、評価委員の中に本協議会の委員以外の方を入れる、また関係する団体や市民のアンケートを入れるなどの提案を頂き、今後検討していきたい。評価事業の負担が大きいことを懸念され、基本業務として取り組んでいることについては、評価項目から削除してもよいのではないかという意見もあったが、基本的な業務を含めて市民の方に知っていただくことが P R になると考える。やっていく中で不必要な点については精査していきたい。

見守り体制についてのご意見については、地域包括支援センターに伝

達していきたい。見守りネットワーク事業の中で、いつの間にか見守られている本人が入院していたなどの事例があり、連携に工夫が必要だと言うご意見があった。地域包括支援センターや見守りネットワーク事業の主管課である社会福祉課にも伝達した。

・会長

このことについてご意見のある方。

・委員

この案で進めていただいていいと思う。

・会長

市として第三者評価を行う目的をどこに置いているのか。誰に向けてこの評価を活用するつもりなのか。評価をするに至った経緯、何を明らかにしようとしているのか、結果をどのように活用していくのか。

・事務局

どこに向けて発信したいかということ、地域の高齢者を含めた市民に向けて発信したい。第5期介護保険事業計画を立てるにあたって取ったアンケートでは、地域包括支援センターを知っている方は2割から3割。地域包括支援センターはPRに努めているが、このような実態がある。

また、地域包括支援センターは委託事業であることから、少くない委託料で運営している。市民の知らないところで多額の委託事業を行っているということではいけないというところが始まり。平成18年に開設して7年が過ぎ、年々事業も増えているが、事業の効率化とスキルアップを図っていかなければならない。次年度に向けた工夫など、PRの面と事業の効率化を図りたいというのが目標と経緯です。

項目については、地域包括支援センターの中心となる4つの業務についても、毎年同じことをやればよいということではない。悪いことを見つけるためではなく、よりよい仕事をするための資料としてやっていただきたいということで項目の内容を考えた。また、総括的な面で包括支援センターの運営や個人情報などの適切な管理など配慮すべき項目を含めて構成した。

評価の結果の活用については、まず公表することによって、地域包括支援センターが身を引き締めて事業をおこなう指標として活用してほしい。公表することによって市民の方々に地域包括支援センターの業務に

についての認識をしてもらう効果を狙っている。

・会長

質問項目で、基本業務については省いてもいいのではないかという指摘があったが、市民に知ってもらうことも大事なテーマであるため残すという提案か。

・事務局

できる限り基本業務についても調査項目に残すと考えた。ただし、内容が重複するいくつかの項目は減らし、その他は案のとおり残した。

・委員

アンケートで評価項目について意見を出したが、センター長の業務について、第三者評価の委員が何を基準に評価してよいかわからないのではないか。また、この項目は包括の全体の活動の総合評価のようなところに入ればいいのではないかと思う。

・会長

評価項目が多い。24年度を今年度評価することになっているが、前回口頭で報告したものを改めて記述することになる。また、来年度は年度末の忙しい時期に評価を行わなければならない。これだけの分量を評価し、かつヒアリングを行う負担軽減のために第三者評価委員が地域包括支援センターに出向くというのが市の考えか。

また、スケジュールがかなり時間が迫っているように思うが、期限が切られているのか。

・事務局

現地でヒアリングを行うことについては、合理的な根拠はない。しかし、第三者評価委員の方々には地域包括支援センターがどのような空間で、どのような姿勢で業務を行っているかを肌で感じつつ評価を行っていただきたいと考えているのでご理解いただきたい。

スケジュールについて、いつまでに行わなければならないと言う背景があるわけではない。第三者評価委員のスケジュールが合わなければヒアリングも実施できない。とりまとめの時期がずれることもやむを得ないと考えている。

・委員

スケジュールと評価項目について。調査を2日間ということなので、

1日2か所の包括支援センターをまわり評価することは不可能ではないか。自己評価で「◎」をつけた根拠など確認していくには項目が多すぎる。丸一日あっても難しいと思う。

・委員

スケジュールは厳しいと感じる。項目は直してもきりがない。事業所として評価する時には、トップの責任というのが重要。センター長の責任とリーダーシップ、法令順守、経營業務の効率化等の点から必要ではないかと申し上げた。

・委員

スケジュールの点で。半日ずつでヒアリングできるかどうかと思う。また、24年度評価を7月に行い、25年度を3月に自己評価、6月に事業計画、7月に実績報告と事業計画を行う。もう少し期間をとる必要があるのではないかと思う。

継続的ケアマネジメント業務について「最適なタイミングで」の「最適」とは、どこを指しているのか判断が難しいのではないか。

・委員

結果の公表の部分がホームページとなっているが、市民全体にということでは高齢者がどれだけホームページを見るのか。高齢者への伝達方法として、ホームページ以外の方法を考えられないか。公表の仕方も考える必要があるのではないか。

・会長

この第三者評価は市民に情報を提供することが根底にあり、地域包括支援センターに自信を持って業務を行っていただくため、ポジティブな表現で評価を行うということでご理解いただいているところと思う。

問題は評価する当人にとって負担にならないかということと、バランス良く内容が盛り込まれているかということ。統合や削除する中で取りこぼしや重複が出てくることがあるかもしれないので、事務局に再度精査をお願いするということでもいいかと、個人的に思うがいかがか。

評価方法に関する点では、今までは地域包括支援センターの業務を書面で見たり口頭で聞くという方法だったが、現場を見ながらのヒアリングは、評価を実態に合わせるためには、あるいは地域包括支援センターの職員が何を責任として背負っているのかを受け止めることも評価に含

まれると思う。評価をする側が個人の資質でヒアリングを行うと評価がまちまちになるので、ヒアリングの仕方がある程度示されるのが無難かと思う。

評価をしたときに公表につなげるプロセスについて、時期の問題、公表方法については、まだ時間があるので事務局で整備をしていただくことでよいかと思う。

- ・ 委員

評価は個人ではなく 5 人の合議で決めるということによいか。

- ・ 会長

チェックは個々に行い、ミーティングの場を設けまとめるということによいか。

現地で利用者のいる前で評価を行うと、時間をとってしまうことと利用者がいると本音が聞けないこともあるので、ヒアリングのタイミングについても示していただけるとよい。

- ・ 事務局

補足。頂いた評価は、最終的には市長決裁の後に市民へ公表する。ペーパーでも公表する用意がある。

また、第三者評価を導入する目的について、以前本協議会において地域包括支援センターの選考方法について話題が出された。公費を用いての委託は入札が基本だが、特定随意契約という例外がこの地域包括支援センターです。しかし、競争原理が働かないので、経営上・運営上の瑕疵が出てこないとも限らない。そのようなことがないよう、大所高所から適切なご指導・アドバイスを頂き、良いものはさらに伸ばし、良くないところは改めるということで、第三者評価を行っていただきたい。

- ・ 会長

議題（２）について、事務局から説明を。

- ・ 事務局

地域密着型サービスの実績報告について。

本日は２か所のグループホームを代表する方に、現状と課題について説明をお願いしているので入室させてよいか。

平成 24 年 4 月に 3 施設 3 ユニットのグループホームが新設され定員は 87 名から 114 名に増員した。当初新規事業者から入居者が集まらず苦

慮しているという話があったが、昨年末あたりから定員を満たすようになった。平成25年3月末のグループホーム全体の稼働率は96.5%となっている。しかし、各施設とも待機者はほとんどなく、1床空きがでるとなかなか埋まらないという話を聞いている。現在2施設で空床がある。また、介護職員の確保やスキルアップが課題となっている。

認知症対応デイサービスの閉鎖について、前回報告した2事業所に加え、7月31日で1事業所閉鎖の届出を受けている。その他の事業所も利用の多い日でも利用定員に達していない状況である。

小規模多機能型事業所では、全ての事業所で登録者が定員に達していない状況である。

・グループホームおひさま流山

平成16年6月にオープンし、丸9年が経過した。今まで苦勞してきた方が人間らしくお過ごしいただければいいのではないかとということで、「人が人として人らしく」という理念を掲げている。

快遊・快食・快眠を三本の矢としている。立地が良いため、神社やショッピングセンターなどへ散歩や買い物に出かける。毎食、旬のもの、季節のものを堪能していただく、普通のものだが、食器選びには工夫を凝らしており、はっきりした色の陶器が好まれる。にぎりずしや鉄板焼きなど、料理にも工夫している。よく遊び良く食べるので、昼夜逆転ではなく、起床6時、朝食が7時である。

家族との信頼関係について、「親の住まいは実家です、実家に遠慮しないように」とお伝えし、ご家族もよく来てくれる。入居者の孫が職員として入職している。

職員の離職率は低く、6年から7年という職員が多い。入職すると辞めない。条件の悪い人を積極的に受け入れる。子連れでも受け入れる。おぶって仕事をしている人もいる。入居者にとっては職員の入替わりがないほうがいい。ノーサービス残業を徹底している。最高齢は70歳が2名いる。入居者なのか介護者なのかわからない。元気ならいくつまで働いてもいいという会社のスタンス。正職員は60歳で定年はあるが、100%定年延長している。

グループホームは介護保険の福祉用具貸与が使えないというのが、看取りを行うにあたってのネックになっている。入居者を12名看取って

いるが、実際グループホームで手をかけて看取ったのは2名で、10名は高齢者住宅に移して看取っている。3名が看取りの時期に入っているが、暴言暴力があって介護抵抗が強いためグループホームで見えていかざるを得ない。グループホームでも福祉用具が使えるといいと思う。

・愛の家グループホーム南流山

メディカル・ケア・サービス株式会社で運営するグループホームは全国で約200か所ある。

平成23年11月に管理者として着任し、日々自問自答しながら運営している。地域の皆様に私たちを知ってもらうには、どうしたらいいだろうと考え、夏祭り、もちつき大会、春祭り、フリーマーケットを施設から発信して開催した。近隣地域には入居者や職員が散歩がてらポスティングを行って広報した。イベントの中で、何かあったら手伝うと声を頂いた。地域の皆様からは施設を訪ねにくいと感じた。

フリーマーケットは、職員や家族の要らなくなったものを安価で売り、その収益を夏祭りやもちつき大会の費用として、飲食を無料で提供することで、訪れやすくなっているのではないかな。

面接に来た方が道に迷ったところ、地域の方が「もちつき大会やる場所でしょ」と案内していただけたという話を聞き、地域に根付いた地域の皆様と交流を持つよう取り組んだ結果かと思った。

認知症を支えるご家族や本人が地域から離れているのではないかな、認知症になったことで社会から孤立することが想像できる世の中になった。その孤独に手を差し伸べるのではなく、地域社会に差し伸べる手を持っていかれたらいいと考える。

・委員

おひさまについて、管理者の方は地元の方でしょうか。職員の定着について、どこも人材不足だが、入居者の家族が職員とは、職員が不足だから採用したのか。

愛の家について、この業界は規模が2極化している。とても大きいところと小さいところと。全国展開の事業所の中には、どこかに社の意向や利益が入っており、地域に溶け込んでいるのかというところもある。計画の中にターミナルケアについての体制を構築するとあるが、医療との連携はどの程度考えているのか。

- ・会長

愛の家について、看取りはマニュアル化されているか

- ・おひさま佐々木氏

入居者の家族の採用については、たまたまです。職員を育てることについては、会社として非常に力を入れている。平成１６年にスタートしたときから実行している。

本日配ったレジュメは、自社で作ったレジュメです。

- ・愛の家

全国展開する中でそのようなイメージを持たれるのは致し方ないことかと思う。自分はこの仕事を好きでやっている。このサービスは利用者のためになるという思いであり、規模の大小にかかわらず、介護の仕事にあたる人としてなしていることかと思う。

ターミナルケアは、訪問診療の部分で医師と連携をとって行っている。実際看取りも行った。職員・看護師・ご家族・医師の連携が重要。より最期らしい最期を迎えられるのではないか。看取りの段取りはマニュアルになっている。

- ・会長

議題（３）について、事務局から説明を。

- ・事務局

地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について。

柏市の認知症対応型通所介護「ふれあいサービス望陽荘」の指定について。柏市から流山市に転入された方が、転入後も引き続き同事業所を引き続き利用したいと申し出があり、柏市の同意を得て、書類審査・ヒアリング審査・現地確認を行い、６月１日に遡って指定したことを報告する。

愛の家グループホーム南流山について、指定の更新申請があった。７月１日に現地確認とヒアリングを行い、提出書類の審査とあわせ基準を満たしていることを確認した。本日の意見を踏まえ８月１日付で指定したい。

- ・会長

報告について確認したということでよいか。

- ・会長

議題（４）について、事務局から説明を。

・事務局

地域密着型サービス事業者の廃止について。

平成２５年６月１８日に江陽台通所介護より、利用者数の減少のため
７月３１日をもって認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所
介護を廃止する届出があったことを報告する。

通所リハビリに移行するため、大部分が引き続き利用する方で、他の
事業所へ移る方が５名、入院中の方が１名。全員の方が次のサービスに
つながっている。

・委員

流山市の規模で、地域密着型サービスはどうか。認知症対応型通
所介護の閉鎖は今年３か所目。小規模多機能も定員を満たしていない。

また、第三者評価の結末はどうなったのか。

・事務局

第三者評価については、ご指摘・ご要望を率直に受け止め、再度項目
や文言・ボリュームを精査したい。しかし大幅な変更は極力避け、まず
はこれをベースに進めたい。まずはやってみて、次回に向け変更すべき
はしていきたい。

地域密着型サービスについては第６期の事業計画が目前に迫っている
が、来年度には市民アンケート、事業者アンケートにより実態を捉え、
慎重に第６期の整備計画を立てたい。制度上使いづらいところが地域密
着型サービスにはある。機会あるごとに国・県にあげていきたい。

・委員

ヒアリングの評価基準はどうするか。

・事務局

マニュアルを作成したい。評価表は、実施前に各委員に報告する。

・会長

議題（５）について事務局から説明を。

・事務局

地域包括支援センターの職員の変更についての報告。

６月２０日付けで東部地域包括支援センターの非常勤専従の社会福祉
士の退職を報告する。東部地域包括支援センターには常勤専従の社会福

社士がおり、地域包括支援センターの設置基準は満たしている。

- ・ 会長

退職して補充がないということで、業務に支障はないのか。

- ・ 事務局

入職したばかりの方の退職のため、当面は大丈夫であっても充足しているかという点と厳しいのではないかと。今後の業務に支障のないよう確認をしていきたい。

- ・ 委員

業務上包括の職員とは行き来がある。6名という職員数からいけば大丈夫ではないかと推察する。

- ・ 会長

その他として事務局から。

- ・ 事務局

次回は11月を予定。